

## 第8回 練馬区基本構想審議会 議事概要（確定版）

日時：平成20年11月8日（土）午前10時～正午

場所：練馬区役所本庁舎5階 庁議室

### <<議事次第>>

1. 開会
2. 「中間のまとめ」の取りまとめ
3. 「中間のまとめ」の区長への報告
4. あいさつ
5. 区民との意見交換会等について
6. 審議会・学習会の開催日程について
7. その他
8. 閉会

### <<出席者（五十音順）>>

秋元和子、浅野祐介、上野定雄、大杉覚、大屋幸恵、高橋徳行、沼田美穂、村松昭、  
本山裕一、山口不二夫、若井治子（以上11名）

### <<欠席者（五十音順）>>

秋山哲男、伊藤勝、岩崎久美子、林真未、三澤ちづ子（以上5名）

### <<傍聴者数>>

12名

## 1. 開会

### ■会長

- ・第8回練馬区基本構想審議会を開催する。事務局より委員の出席状況等について報告をお願いしたい。

### ■事務局

- ・11名が出席していることから、会議が成立していることを報告する。
- ・本日の傍聴者は12名である。

### ■会長

- ・第7回議事概要については確定でよいか。  
(異議なし)

## 2. 「中間のまとめ」のとりまとめ

### ■会長

- ・前回、「中間のまとめ」の修正案を審議していただき、さまざまな意見をいただいた。これをもとに事務局で審議会としての「中間のまとめ」(案)を作成した。今日はこれをもとに取りまとめたい。
- ・今後、この案について、区民との意見交換会を開催する予定であり、今日はその開催日程やその際の役割分担などについても議論したい。
- ・それでは、案について事務局から説明してもらおう。

### ■事務局

ー第8回審議会配付資料1にもとづき説明

### ■会長

- ・前回の議論を踏まえ、私からもいくつか要望を出したうえでまとめていただいた。区報にも既に掲載する準備を進めているため、構成や大きな枠組みの修正は難しいということは前回了解していただいたとおりであるが、細かい表現については変更可能であり、ご意見をいただきたい。

### ■委員

- ・前回のたたき台修正案は、どちらかといえば、事務局のほうでいろいろな素材を入れ込んでいる印象だったが、よくまとまっており、区民に意見を聞くベースにはなると思う。
- ・P6の「3 重点軸を踏まえた分野横断的な取り組み(例)」にある「安全で健康な食生活が送れるようにする」という表現は、前回議論があった食文化の継承といった議論を踏まえると、概念として狭いように思われる。
- ・「4 基本構想を実現するために」のリード文の「進捗状況の公表と区民がチェックできる仕組みづくり」という記述は、チェックの主体として区民だけでなく議会も触れる必要があるのではないか。
- ・別表1について、重点軸について色分けをしてもらったが、表現がしつこい気がしてい

る。

■会長

- ・別表1の色分けについては、私も違和感がないわけではないが、分かりやすいように、このようにした。他に分かりやすい表現方法があればご意見をいただきたい。
- ・「4 基本構想を実現するために」については、議会について、行政計画にあえて記述すべきかどうか難しい問題である。また、行政評価制度の進捗状況の公表についても、議会にはきちんと報告するのが当然の前提であり、公表は区民に対することを主として記述すべきではないかと考える。

■事務局

- ・現在でも、公表ということとは別に、議会に対しては常に報告しているので、議会に対しては公表の仕組みを新たに作らなくても、既に仕組みがある。このため公表の仕組みづくりということについては区民を中心とした表現が良いのではないかと。
- ・むしろ、同様の観点から言えば、(1)の最後の行の「区民・議会に進捗状況を公表する」という記述を区民だけに修正した方が良いかもしれない。

■会長

- ・今の段階ではこの部分で議会まで記述する必要はないと思われる。
- ・「安全で健康な食生活が送れるようにする」という表現について、どなたか代替案はないか。

■委員

- ・「安全な食生活を通じて健康づくりに取り組む」、といったような、前回の資料に近い表現に戻した方が良いのではないかと。

■会長

- ・この部分については、表現を別途調整させていただきたい。

■委員

- ・分かりやすくよくまとまっていると感じた。別表1の色刷りも分かりやすく良いと思う。ただし、白黒にコピーした時にも分かるように配慮してほしい。
- ・区民懇談会のことを思い起こしてみると、環境まちづくりについて良い報告がされていた。その中でも特に良かったと感じたのが河川の自然河川化であり、一部白子川等で取り組みが始まっているとも聞いており、その内容を入れても良いのではないだろうか。
- ・また、それに関連して、板橋区などでは蛍を育てるノウハウを持っていて、河川で蛍が育てられるような環境を目指している。この際大きな問題となるのが大雨の際に流れてしまうということのようで、同じ事が練馬区の防災でも根本的な問題となっている。練馬区では大雨の際に下水を河川に流している。これを防ぐため、浸透性の歩道を整備すべきだとの意見が区民懇談会であった。その内容をどこかに盛り込んでどうか。
- ・「3 重点軸を踏まえた分野横断的な取り組み(例)」の「まちの魅力・活力を高める」の部分に「何でも相談・たまり場づくり」という表現があるが、たまり場という言葉は

あまりイメージが良くないのではないかと。

■会長

- ・河川や浸透性歩道の話は「3 重点軸を踏まえた分野横断的な取り組み（例）」のどこかに位置付けるということで良いかと。

■委員

- ・河川に関する指摘は「3 重点軸を踏まえた分野横断的な取り組み（例）」で検討していただきたい。一方、浸透性歩道は別表1のどこかに盛り込めば良いと思う。

■会長

- ・浸透性歩道については、個別的な内容なので今回基本構想に盛り込むことは難しいかもしれない。
- ・「何でも相談・たまり場づくり」は、こういう事業は既にやっているのか。

■事務局

- ・地域福祉計画の検討過程で、「地域のたまり場づくり」が必要ではないかというような課題が出され、現在、相談情報ひろば事業として進めている。一方、区民懇談会では総合相談窓口をつくりたいという提案があったので、両者をドッキングしたものとして提案した。

■会長

- ・既に事業名として認知された表現ならば良いが、そうでないとすると、ここだけ少し砕けた表現過ぎるかもしれない。

■委員

- ・「安全で健康な食生活が送れるようにする」の代替案として、少し長くなるが、「安心して食べる食材を提供して健康的な生活を送る」としてはどうか。
- ・「たまり場」は、井戸端づくりにした方が良いのではないかと。

■会長

- ・「3 重点軸を踏まえた分野横断的な取り組み（例）」についてはあくまでも例示であり、数についても今後議論があり、今までの議論の成果を踏まえると、このようなものがあるだろうという例示であることを前提とさせていただきたい。
- ・表現については、いただいたご意見を踏まえて、少し考えさせていただきたい。

■委員

- ・別表1は、色がついて対応する部分が分かりやすくなってはいるが、色がついていないものをどういう扱いにするのかが問題になると思う。
- ・「環境まちづくり」分野についていえば、みどりに特化しているので、省エネルギーや温暖化などの「地球環境問題」には、対応できておらず、これらをどのように扱うのかが重要になるのではないかと。「地球環境問題は今後一層深刻になるので、その考えを盛り込むべきである」という指摘が、区民懇談会の発表会でもあった。このため、何らかのかたちで盛り込むべきではないかと思う。

■会長

- ・今のご指摘は非常に重要だと思う。別表1のまとめ方については、今後考え直す必要性があるかもしれない。
- ・「3 重点軸を踏まえた分野横断的な取り組み（例）」では例示となっているが、最終的にはプロジェクトとして例示されたものに関する内容のみを記載するというところもあるかもしれない。

■委員

- ・「4 基本構想を実現するために」について、(1)で、「成果目標を明示する」という表現がある。すばらしいことであるが、大丈夫なのかと感じた。たとえば産業振興において、そうしたことが示せるのか疑問がある。成果を問う、ではどうか。

■会長

- ・ここは、他自治体でもなかなかできていない部分であり、ここまで書くときついかもしれないが、大幅に後退はさせたくない。基本構想は行政を制御する計画であるので、制御する仕組みを考えられる程度には盛り込んでいきたいと思う。最終報告に当たっては、「目標をきちんと明示して取り組む」など、もう少し現実に即したかたちに修正することを検討したい。

■委員

- ・重点軸という言葉が気になる。「軸」であると0もマイナスもあるし、回転することもある。使い古された言葉だが、「柱」の方が良いのではないか。
- ・「みどりと水」を大切にするという点について、特に水を大きく打ち出してはどうか。懇談会では水を大切にという考えまでは出たが、そこから十分な議論が出来なかった。練馬区は豊かな湧水があり、それは都心としては非常に珍しいものなので、それらを大事にすることが重要ではないか。井戸水や河川に合わせて湧水という言葉をどこかに入れていただきたい。

■会長

- ・進捗を区民がチェックできるようにすることとともに、区民がアイデアを出せるようにしたい。水に関わるような課題についても、今の段階でいろいろなことを盛り込み過ぎると良くないので、行政をチェックするだけではなく区民が議論できる場を今後もつくり、より良い施策を組み立てていくという体制をつくることで取り込める。
- ・重点軸という表現については、宿題として預からせていただきたい。方向性を示すベクトルのようなものであるので、良い表現があれば是非考えさせていただきたい。

■副会長

- ・「4 基本構想を実現するために」の(3)の体制づくりに関して、次世代育成において個人ではなく地域でというところにもあらわれている通り、コミュニティが重視されているが、コミュニティを築きあげていく個人としての区民の役割や主体性についても明確に位置付けておく方が良いのではないか。

■会長

- ・その点は「1 今後 10 年の区政運営の基本となる考え方と重点軸」で、主役は一人ひとりの区民ということをやっている。
- ・「4 基本構想を実現するために」について、コミュニティを重視したことで個人という表現が弱い点をご指摘のとおりである。

■委員

- ・「重点軸」の(3)で「子ども」だけが明記されているが、疑問がある。一方で別表1の青色が付いている施策は子どもと関係のない施策も多い。
- ・また、健康福祉に関する分野ではかなり漏れているものもあるのではないかと。

■会長

- ・「重点軸」は簡略化して分かりやすくなったが、表現が十分ではなくなっている。ここでいう「子ども」は年齢的な「子ども」もあるが、大きくは次世代育成の問題として考えている。この点は十分に伝わるようにしたい。

■委員

- ・「3 重点軸を踏まえた分野横断的な取り組み(例)」の「安全で健康な食生活」という表現について、健康は心の問題もあるので、食に重点を置くのではなく、健康に重点を置くべきである。
- ・「たまり場づくり」であるが、「居場所づくり」という表現ではどうか。
- ・別表1は読みにくいので色を薄くしてもらいたい。また、色がついていないものはどう扱うのか疑問がある。
- ・子育て支援マップの作成にあたり地区区民館めぐりをしているが、地区区民館を地域コミュニティの拠点としたいと考えている館長さんもいる。

■会長

- ・別表1の色づけについては、ご意見も多いようなので再検討したい。
- ・「たまり場づくり」についても、表現を再検討したい。

■委員

- ・都市の発展にはバランスの取れていることが重要である。この構想だとベッドタウン化してしまうのではないかと感じる。産業振興に関する記述をもっと充実させてはどうか。
- ・それに関連して、大学との協力関係がどこにも書かれていないのは問題と感じる。イギリスのバーミンガムに住んでいたことがある。ここは産業が衰退した都市だが、その後非常に住みやすい都市に変貌している。そのときに核になったのは大学と行政とボランティアであったようである。どこかでこの点は盛り込む必要があるのではないかと。
- ・バーミンガムでは空き家をジュエリークォーターとして若い芸術家を呼び込み再生した。一方、練馬区にも芸術学部を持っている大学もある。
- ・別表1の「I-3①」に企業誘致が書かれているが、土地利用の状況を考えると第二次産業の誘致は非現実的である。やるとすれば第三次産業であり、芸術に関連する起業家の育

成が重要であろう。

■会長

- ・今のご指摘に関連して、たまり場という議論に関して、地域において人が集まる場所だけでなく、地域の企業がそうしたことに協力するというところもあると思う。
- ・ご指摘のとおり、コミュニティビジネスという観点が抜けているのではないかと感じている。

■副会長

- ・板橋区でも起業を中心に地場産業の再活性化に取り組んでいる。練馬区でも今後考えていくべき点だと思っている。

■委員

- ・「3 重点軸を踏まえた分野横断的な取り組み（例）」の「まちの魅力・活力を高める」において、「練馬ブランド」の筆頭に「アニメ」が描かれているが、区民の意識として、それについて自分たちが何かするという意識はあまりない。それならむしろ農とみどり、水といったことの方が強い。できれば順番を変えてほしい。

■委員

- ・アニメと農とみどりの順番については、順番は変えても良いが、アニメは入れておいてほしい。明治大学でも漫画博物館を作ることに決定した。ゴッホの絵も生前は売れなかった。練馬は漫画家がたくさん住んでおり、まだ価値が見出されていない時から収集することは重要である。漫画ミュージアムなど、何らかの取り組みを早急に進めるべきであり、別表1にも記述すべきである。

■委員

- ・アニメについて、一般の区民には見えにくいかもしれないが、産業振興の分野でも取り組みが動き始めており、アニメーション協議会を設立して産業振興に活用していこうといった取り組みも進められているため、施策としてきちんと入れておいていただきたい。

■事務局

- ・別表1の色分けについては苦慮している。3つの重点軸は全体を貫く視点であり、個別の施策を色分けするのはどうかということもある。とりあえず、表現は色ではなくマークですること、本日のご指摘にはある程度応えられるのではないかと考えている。
- ・また、基本的には重点軸にはすべての施策が関係しているの、凡例も「特に関係が深い施策」といった表現にしたい。
- ・どの重点軸にどの施策が関係しているかということも、こうした点と合わせて再検討したい。
- ・文章表現にご指摘があった点については、最終的には会長と調整させていただければと思っています。
- ・微修正はあるが、審議会には大まかにはこの方向性で受け止めていただいたということで、「中間のまとめ」とさせていただきたい。

### 3. 「中間のまとめ」の区長への報告

＜区長への報告＞

—会長から志村区長へ「中間のまとめ」が提出された

### 4. あいさつ

#### ■会長

- ・区民懇談会の議論を大いに参考にさせていただくとともに、審議会の英知を集めるかたちで中間のまとめとして整理した。
- ・これは、最終的にどういった方向性で提示するかを分かりやすく簡潔に示したものであり、審議会としての考え方を整理したものである。
- ・是非多くの方々のご意見をいただきたいと思う。また、基本構想は行政を制御する計画であるので、行政の職員からのご意見をいただきたい。

#### ■志村区長

- ・審議会で8回の審議と、加えて勉強会もしていただき、熱心なご審議をいただき感謝申し上げます。
- ・行政分野別の整理だけではなく、それを貫く視点が必要との指摘が審議会からあったと伺っている。行政は専門分野の縦の系列でまとめるのが普通だが、これを貫く横の線が、これからは視点としてとても重要であると私も考えている。縦糸と横糸で織りなす織物をいただいたと感じている。
- ・「中間のまとめ」ということであるが、大変良くまとまっていると受け止めている。
- ・今後、区報で周知し、区民意見の聴取や意見交換会で意見をもらいたい。また職員や、区議会からも意見をいただきたいと思っている。審議会の皆さまには、こうした意見を今後の議論に生かしていただきたい。
- ・今後とも、なにとぞよろしくお願ひしたい。

### 5. 区民との意見交換会等について

#### ■会長

- ・区民との意見交換会について、事務局より説明してほしい。

#### ■事務局

—第8回審議会配付資料2にもとづき説明

#### ■会長

- ・ご意見、ご質問はないか。

#### ■委員

- ・それぞれの会でニュアンスの違う説明があってはいけないので、事前に発表者の打ち合わせをしてほしい。



■委員

- ・どのような説明をすべきか事前に資料を用意していただきたい。

■会長

- ・説明用のパワーポイントのプレゼンテーション資料などは、事務局で用意していただきたい。
- ・その上で、必要に応じて個人ごとに事務局と打ち合わせをするなり集まるなりすれば良いのではないか。
- ・なお、質疑応答への回答内容は、それぞれ委員個人の見解が良い。その点、参加者にもきちんと説明し理解していただく必要がある。

■委員

- ・行政側から、位置づけや経緯などの説明もあった方が良いのではないか。

■事務局

- ・検討の経緯、経過の説明は事務局から行う予定である。

■委員

- ・パワーポイントのプレゼンテーションは使用可能なのか。

■事務局

- ・基本となる資料は区報を想定している。パワーポイントが必要ということであれば改めて別の資料を作ることになる。

■会長

- ・その点については事務局で検討していただきたい。

## 6. 審議会・学習会の開催日程について

■会長

- ・学識経験者委員がそれぞれ専門の視点からお話をする機会があっても良いだろうという観点から、学識委員を講師とする学習会を行うこととした。
- ・日程等について事務局より説明してもらいたい。

■事務局

ー第8回審議会配付資料3にもとづき説明

## 7. その他

■会長

- ・基本構想ニュースおよび区報特集号の発行について事務局より説明してもらいたい

■事務局

ー基本構想ニュース第3号の発行および区報特集号の発行予定について事務局より説明

■事務局

- ・次回審議会は1月31日に開催する。意見交換会については別途ご連絡させていただく。

- ・また、その間、区政モニターの意見を聞く機会があるので、そこでの意見も後日審議会でご報告する。

## 8. 閉会

(以上)